

大崎市（三本木地域）



湯花神事

若宮八幡神社では一子相伝とする湯花神事ゆばなしんじが、秋の例祭日の前夜、旧曆九月十八日の宵宮祭よみやまつりに行われます。神事の由来は判然としませんが、元禄年間（1688～1703）に三十代澁谷実玄しぶやじつげんにより再興されて以来、今日に伝えられています。夕方、氏子が持ち寄った釜を参道の両側に並べ、拝殿では「ケンザン」という祈禱を行います。薪が焚かれて釜の湯を沸かし、湯釜一つ一つを祓はらい、湯鎮めゆしずの儀が行われます。庭遊びという神楽に移り、参道を太鼓の音に合わせて舞います。神職は一番の釜から順に湯笹ゆざさで頭から熱湯を浴び、湯受けの者が祝詞のりとを唱えて安泰を祈願します。この若宮八幡神社は文治五年（1189）に源頼朝により、鶴岡八幡宮を御分霊し、社殿を建て澁谷時国しぶやときくにを剃髪ていはつさせて、名を有全ゆうぜんと改め世襲の別当としました。湯花神事は昭和54年11月1日に市指定無形民俗文化財となっています。

